

職員による自己評価

A環境面

バリアフリー化は問題視していない。

職員配置は適切だといえる。

B児童への支援内容

日々支援の内容について打ち合わせや振り返りを行うことができている。

各活動の内容を固定化しないように工夫している。

ガイドラインに関しては徐々に認識がされている。

C関係機関との連携

相談支援事業所以外の関係機関との連携は不足している。

D保護者への説明責任・信頼関係

保護者会等の保護者同士の交流がない。

地域との交流も少ない。

運営規定・支援内容・利用者負担などについての説明は改善されている。

E非常対応

非常災害に対する訓練は履行されている。

委員会を設置することで、各マニュアルの改善はなされている。

保護者による評価

A環境面

バリアフリー化については問題視していない。

広さは問題ないが、きれいさに改善点がある。

職員の配置数や専門性は適切である。

B児童への支援内容

プログラムは固定化されず工夫があるとの声が多いが、一部マンネリ化しているとの声がある。サービス計画は個人にあったものになっている交流の機会を求めている意見が多いが、求める声もある。

C事業所からの情報発信

面談で子どもの様子を聞いて一緒に解決してくれている。

父母会や保護者同士の連携はないが、保護者の会があっても良い。

個人情報には十分配慮されている。

情報に関してもお便りやホームページで案内されてわかりやすい。

D非常対応

訓練実施に関しては保護者も周知しているが、マニュアル等の周知・説明は不足している。

事業所内での分析

【共通点】

- ・職員の配置数は適切である。
- ・プログラムは工夫がされていると評価されている。
- ・面談等で子どもたちのデイサービス計画を綿密に作成している。
- ・保護者同士の交流を持つ機会がない。
- ・バリアフリーについては、問題視していない。

【相違点】

- ・プログラムについては一部保護者がマンネリ化していて子どもが嫌がるとの意見を挙げている。
- ・災害時訓練に関しては、職員は実施したという意識はあるが、保護者にはその結果が知らされていない
- ・ガイドラインや各種マニュアルなどへの理解は、職員は徐々に認識しているが、保護者の方には周知・説明は不足している。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・面談等でデイサービス計画を綿密に作成し、保護者に理解していただいたうえで実施できている。
- ・プログラムに対して固定化されないように工夫がされており、多くの保護者からもご理解と納得をしていただいている。
- ・常に子どもたちの様子を保護者と確認し、個別の配慮等をできるような環境になっている。
- ・職員の療育活動への意識は高い。

事業所の改善点

- ・プログラムの一部がマンネリ化しており、子どもたちが飽きてしまっている。
- ・ガイドラインや各種マニュアルの周知徹底に関して職員の方は勉強しているが、まだまだ認識が低いと自覚している。
- ・保護者同士のつながりが薄く、その機会も少ない。
- ・昨年と同様の項目で改善すべき点が指摘されている

事業所の改善への取り組み

- ・療育活動のプログラムがマンネリ化しないように、常に見直しをしていく。
- ・ガイドラインや各種マニュアルなどを理解した行動を取ることができる。
- ・今後も研修等で学ぶ機会を作り、職員一人ひとりの専門性を高める。
- ・保護者同士の連携をとるために、保護者会等の機会を設ける。
- ・保護者との連絡を密に行い、綿密な支援計画書を作成する。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

まず、本年度も保護者の皆様方のご協力に感謝申し上げます。お忙しいところ、まことにありがとうございました。今年もこの自己評価によって、保護者様の評価と職員の評価の共通点・相違点を、改めて客観的に認識ができるいい機会となりました。特に「プログラムのマンネリ化」というワードは職員一人ひとりが真摯に受け止め、即座に改善につなげなければならないご意見でした。どうすれば子どもたちや保護者様の満足につながるのかを職員一人ひとりが今後も継続して考え続けていきたいと思っております。また、保護者様同士のつながりとして保護者会の実施についても積極的に取り組めるように検討させていただきます。